

継続は力なり

続けることに意味がある

今から24年前に合唱指揮者・関屋晋氏が書かれた『コーラスは楽しい』という本があります。数少ない合唱の本で、小澤征爾氏が序文を寄せています。そこでは「続けることの重要性」を強調しています。今は実力不足であっても、挫けずに修練を積んでいけば、いずれ大成できる。継続すること自体、優れた能力のひとつだとしています。コロナ禍で苦しんでいる合唱団の方々へのエールとなるでしょうか。

合唱人口が減り、合唱団が先細りになってゆく状況は既に20年前からいわれていたことです。そこへコロナ禍の追い打ちです。とくに高齢者の多い合唱団や大学合唱団はコロナ禍の影響をまともに受けています。そんな中においても再建しようという芽吹きも始まっています。以下に少し長いですが同書より引用します。

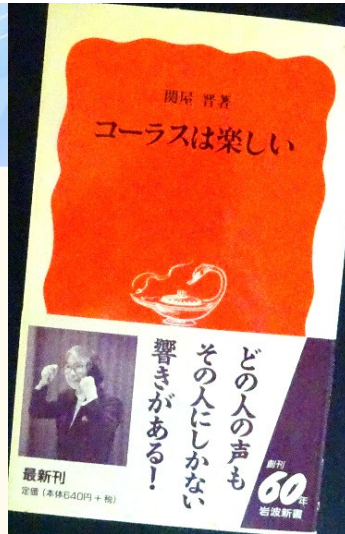
続けることに意味がある

合唱団は10年続かどかがひとつのハードルだ、と言われてます。2、3年ならば勢いでいけるけれども、10年となると、団員一人ひとりの努力がないと続かない。これは同じことが合唱指揮者にも言えます。わたしがこの道に入った頃に言われた言葉は、「10年続けて一つの合唱団を指揮出来たら一人前だ」。また、こんなことも言われました。「10年間、前に行ったり戻ったりして、やっと少し進歩するのが合唱団だ」...

コーラスとは、さまざまな声が集まり合い、溶け合って作り出す響きです。わたしはよくアマチュアコーラスを「大阪城の石垣」にたとえます。石垣をつくっている石の大きさは決して一様ではありません。大きくて立派な石もあれば、小さくて目立たない石もあります。しかし、「石垣」の強さ、そして美しさは、それらが積み重なり、支え合っているからこそなのです。...それぞれの人の声には、その人にしかない響きというものがあります。...コーラスとは、だから楽しいものであり、楽しくなかったら嘘です。

なれあってはいけない

なれあいとはつまり、音楽に対する姿勢に厳しさをなくしてしまうことです。...楽しむことこそが中心です。...本当の楽しさとは、必ずどこか厳しさを含んでいます。厳しさがないと、実は長続きしない。...合唱団としての緊張感を保つためにも、どのようなかたちであれ、必ず発表の場をもつべきだと思っています。...演奏会は練習と



はまったく別物です。一回かぎりという厳しさ、繰り返すことができないという厳しさは(これは同時に音楽の美しさでもあるのですが)、これを味わうことで、合唱団は本当の意味での実力をつけていくことができます。...同時に、他の合唱団の発表を聴くというのも大切なことです。「学ぶはまねろ」です。自分たちにはないものを学ぶ、他人のいいところを「盗む」ということです。...「いいところを見つける」、これが大事です。...下手なところ、悪いところというのは、誰でもすぐ気が付くものです。...「いいところを見つける」とは、つまり聴く力とっていいでしょう。

若手の減少という問題

一般合唱団の場合、若い世代が減っていることは確かです。これは必ずしもコーラスに興味を持つ人が減ったということではない。中学・高校で、あるいは大学でのコーラスは依然としてさかんです。学生時代にコーラスに情熱を燃やした人が、社会人になると遠ざかってしまうというパターンが増えたということです。つまり、次につながっていない。これは言い換えれば、いまのアマチュアコーラスの世界は、学生は学生だけ、ベテランはベテランだけというような、同じ年齢の人たちだけが集って歌うというのが主流になっている。...若い力がどんどん入ってきてこそ合唱団は蘇り、ひいては自分たちが歌い続けることができるのです。

...コンサートを開くと、聴衆の性別や年齢層が偏っていることが多い。学生コーラスの場合は女子学生ばかり、一般合唱団、とりわけ「おかあさんコーラス」だと女性がほとんどで、男性は出演者の夫や親戚くらいといった状況をよく見ます。これは老若男女のバランスがよくとれているヨーロッパとはまったく違っています。...本来めざすべきはこうだろうと思います。そのためにも、合唱団自身が多様な年齢層で構成されていなければならないはずです。

【 関屋 晋 (1928 - 2005) 】 (Wikipediaより)

ほぼ独学で合唱指揮者になった。本名は関屋晋。東京都出身。都立小山台高校卒業、早稲田大学政治経済学部在学中の1949年「早稲田大学コール・フリューゲル」を設立。在学時よりアマチュア合唱団の指揮者として活躍。1951年早稲田大学卒業。卒業後は一時期会社勤めをしたが、合唱に専念するため、1957年に退職。主に大学、一般合唱団(市民合唱団、職場合唱団)の指揮・指導に携わった。「専業合唱指揮者」の草分け的存在。彼以前の合唱指揮者は他に主たる仕事(教職や作曲、声楽など)を持っていたり、オーケストラや吹奏楽の指揮もしていた。合唱に関する仕事のみで長年生計を立てたのは、日本ではおそらく彼が初めてである。1963年日本合唱指揮者協会創立に参加。1971年第3代、1992年第5代の理事長となる。『コーラスは楽しい』(岩波新書 1998年9月21日発行)

継続は力とは言い古されたことばかも知れませんが、合唱団員がお互いに「石垣の石」であることを確認し合えると楽しい合唱団になるのではないのでしょうか。